

成功につなげるための サプライチェーン・セルフチェック

サプライチェーン全体で同期によって効率化を推進するための
セルフチェック（自己診断）ガイド





今日のサプライチェーン課題への対処

サプライチェーンは常に複雑ですが、近年、変化や課題が発生する速度は急激に速くなっています。供給網の遮断が頻繁に発生しているため、コストが上昇し、持続可能性が緊急課題となっています。

当社の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイによると、**84%**の企業で過去1年間に大規模な遮断が供給網で発生しており、企業が生き残るには対応が必要なのは明らかです。

こうした課題への対処は、システムがうまく接続されているかが重要なポイントであることは明らかです。自社のシステム間でシームレスなコミュニケーションを優先する企業は、生き残って成長し、顧客により良い、信頼性の高いサービスを提供することができます。

サプライチェーンを同期化する手法から
メリットを得られるか検討する時期がきています

サプライチェーン実行の同期 | Copyright © 2024 Blue Yonder, Inc.



先進企業が実行していること

当社の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイでは、次の3つの主要課題について重点的に説明しています。

絶え間なく続く混乱：多くの企業（84%）では、材料の不足、納品の遅延、輸送能力の不足などの問題に取り組んでおり、これらの課題に対応する能力は限られています。

コストの上昇：半数近く（46%）の企業が、材料費、人件費、および輸配送費の上昇により、利益率が減少していると報告しています。

持続可能性への圧力：ほぼ50%の企業が持続可能性の実現に努力しており、廃棄物の削減と効率の向上に注力しています。

これらの課題に直面して、多くの企業がAIや機械学習などの高度なテクノロジーに目を向けているのは当然のことです。約80%の企業が、接続性と可視性の向上、業務の最適化、回復力の構築を目的としたソリューションへの投資を増やしています。

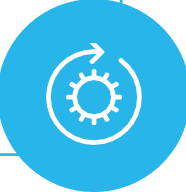
ただし、テクノロジーだけでは十分ではありません。最も成功を収めた企業は、サプライチェーン全体でこれらのツールを統合した企業です。統合によって、すべてのシステムが連携します。

また、倉庫管理、輸配送、注文管理などの重要分野でパートナーとシステムを接続することで、問題を解決して持続可能性の目標を効率的に達成すると、混乱がチャンスに変わり、効率、収益性、顧客満足度の向上が促進されます。



自社の立場

これらのメリットを十分に実現するためには、サプライチェーン全体にわたって自社のシステムとパートナーが現在どの程度同期しているかを評価することが不可欠です。



サプライチェーンは、今日の課題に対応するために本当に同期されていますか？このガイドを読み進める際、個々のサプライチェーンシステムや工程が重要分野全体での程度統合されているのかを評価する時間を設けてください。

あらゆる工程の同期

市場変動、コスト上昇、持続可能性への圧力がサプライチェーン全体の安定性と同期化への対応状況にどれほど影響するのかを確認します。

倉庫

倉庫業務が輸配送管理や注文管理とどれほど効果的に統合されているかを評価し、サプライチェーン全体に影響を与えるボトルネックが非効率性によってどのように引き起こされているのかを考慮します。

輸配送

分断された物流網がその他のサプライチェーン要素に影響を及ぼしているかどうかや、混乱とコスト上昇がビジネスでその他の分野に連鎖的に影響しているかどうかを評価します。

注文

注文管理システムの分断がどのように遅延、エラー、および幅広い業務課題をもたらしているかを考慮します。

セルフチェック：サプライチェーンの同期化の準備はできていますか？

複雑なサプライチェーンの成功を左右する要素は、倉庫、輸配送、注文におけるシステムの接続状態や、これらの領域がどれほど円滑に連携しているかです。システムが分離している場合は、非効率性と混乱が相まって、機会の喪失と顧客満足度の低下につながります。

個々のサプライチェーン領域を同期化することで得られるメリットを特定するのに、このセルフチェックが役立ちます。



次の項目を考慮して、各業務を評価します。



あらゆる工程の同期

サプライチェーンは、市場の変動、コストの上昇、持続可能性への圧力に対してますます脆弱になりつつあります。同期工程がなければ、利潤の確保、変化への適応、業務目標への対応はほぼ不可能です。

説明：幅広い業務課題に対処するサプライチェーンの能力を評価するとき、混乱に対処するため全体的なプロセスの中でどの程度同期できているか考慮してください。以下の項目に1つ以上該当する場合は、現在のやり方に問題があるかもしれません。回復力と効率性を向上するために、より統合的な手法が必要か検討するときかもしれません。

あらゆる工程の同期

倉庫

市場の変動とコスト上昇は不安定さを引き起こすものの、サプライチェーンは独立して動作するシステムのために、全体的にまとまった対応をとるのが難しい。

サプライチェーン全体にわたりシステムが断片化されている場合は、変化する顧客需要や外部状況にすばやく適応する能力が阻害され、非効率や機会の損失を招いています。

分断されたプロセスが、持続可能性への取り組みの効果的な実施や、サプライチェーン全体での廃棄物の効率的な削減を妨げています。

データのサイロ化とリアルタイム統合の欠如により、可視性が制限され、AI や自動化を活用したり予期せぬ混乱に系統立てて対応することが困難です。

輸配送

注文

サプライチェーンの同期で実現できること

サプライチェーン全体を同期する統合プラットフォームにより、データのリアルタイム可視化と高度分析が自由にできます。このレベルの同期により、組織はコストを削減して、あらゆる業務で持続可能な取り組みをシームレスに導入できます。

AI による洞察を活用し、完全に接続されたサプライチェーンを維持することで、業務では俊敏性と回復力を保持し、あらゆる市場状況に適応できます。

あらゆる工程の同期

倉庫

輸配送

注文

倉庫

倉庫業務はサプライチェーンの中核ですが、注文や輸配送に直結したリアルタイム可視化や効率的なプロセスがないと、すぐにボトルネックになる可能性があります。分断されたシステムは、在庫の不均衡、遅延、運用コストの上昇につながります。

説明：倉庫が他の業務とどの程度統合されているかを評価し、同期における潜在的なギャップについて明らかになることを考慮してください。以下の項目に1つ以上該当する場合は、現在のやり方に問題があるかもしれません。回復力と効率性を向上するために、より統合的な手法が必要か検討するときかもしれません。

- 倉庫の在庫レベルは輸配送管理システムや注文管理システムと正確に共有されていないため、過剰在庫や在庫切れの状態が頻繁に発生します。
- 倉庫の自動ワークフローは、輸配送スケジュールや注文フルフィルメントから分断されているため、サプライチェーン全体で遅延や非効率が生じています。
- 分断されたプロセスが、持続可能性への取り組みの効果的な実施や、サプライチェーン全体での廃棄物の効率的な削減を妨げています。
- 倉庫の労働資源は、サプライチェーンシステムからのリアルタイムデータに基づいて動的に調整されないため、生産性の低下や運用コストの上昇を引き起こしています。
- 倉庫在庫や人員配置の問題により、注文は受け付けられたものの履行されないことに、顧客は失望しています。
- 幅広いサプライチェーンへの統合が不十分であるため、倉庫業務はサイロ化されたままになり、混乱への対応の遅れや顧客満足度の低下につながっています。

倉庫の同期化でできること

倉庫を輸配送や注文管理に完全に連携した同期するためのハブへと変えることで、サプライチェーンを進化させることができます。この統合により、リアルタイムデータフローと最適化ワークフローがすべての業務で可能になり、分断が解消されて、効率的で回復力のある統合サプライチェーンが育成されます。倉庫を同期実行戦略の重要な要素にすることで、サプライチェーン全体で業績の向上を推進できます。**ビデオ：同期実行による労働力不足への対抗** →

自社の輸配送業務

輸配送はサプライチェーンの中核ですが、混乱が発生した場合は、業務全体に波及効果をもたらす可能性があります。統合された輸配送がない場合、コストが上昇し、配送の信頼性が低下します。

説明：一貫性があり効率的なサプライチェーンを維持するため、輸配送業務が倉庫管理や注文管理とどの程度同期されているかを評価してください。以下の項目に1つ以上該当する場合は、現在のやり方に問題があるかもしれません。回復力と効率性を向上するために、より統合的な手法が必要か検討するときかもしれません。

あらゆる工程の同期

倉庫

輸配送

注文

- 交通渋滞、天候、輸送能力の制限により、配送スケジュールが頻繁に混乱し、倉庫や顧客注文による需要への対応に直接的な影響があります。
- 顧客への配達遅延や配送中のセキュリティ問題により、国際配送が混乱して、配送スケジュール、在庫ニーズ、顧客注文の間に不適合が生じ、顧客満足度が低下しています。
- 輸送業者やドックチームは、到着を事前に通知することなく直前の約束が変わったり遅延することにいらだちを感じています。
- 輸配送システムは単独で運用されるため、ルート最適化に加え、倉庫管理システムや注文管理システムとの効果的な通信に苦心しており、サプライチェーン全体のコスト上昇と非効率化につながっています。

輸配送の同期で実現できること

倉庫管理や注文管理システムと完全に統合された輸配送管理システム (TMS) は、輸配送管理を単一の協調システムに変換できます。AI による洞察を活用して、完全に接続されたサプライチェーンを維持することで、業務では俊敏性と回復力を保持してあらゆる市場状況に適応できます。この相互接続手法により、サプライチェーン全体でシームレスな通信ができるので、End-to-Endのオペレーションの効果的管理、ルート最適化、コストの管理ができ、さらに最も重要なこととして、定刻配達を実現します。分断を解消して輸配送をその他の重要業務と同期することで、業務では効果的に混乱に対処して、効率を高め、サプライチェーン全体の業績を向上できます。

ビデオ：難局を切り抜ける：サプライチェーン実行の同期化 →

自社の注文管理システム

効果的な注文管理システムは顧客需要を満たすために不可欠ですが、システムが分断されていると、在庫切れ、遅延、エラーにつながる可能性があります。同期しなければ、精度の保持と顧客満足度の確保は困難です。

説明： 注文管理プロセスの効果を評価し、その結果、どれほどサプライチェーン全体でより大規模な同期の必要性が示唆されているのか考慮してください。以下の項目に1つ以上該当する場合は、現在のやり方に問題があるかもしれません。回復力と効率性を向上するために、より統合的な手法が必要か検討するときかもしれません。

あらゆる工程の同期

倉庫

- 倉庫の欠品や過剰在庫は繰り返し発生する問題で、リアルタイム在庫や注文状況の可視性が乏しいことを示しています。
- 輸配送や倉庫でサプライチェーンが混乱した際に可視性がないため、在庫のレベルや注文の充足に悪影響を及ぼし、遅延やコスト上昇が発生しています。
- 顧客は、倉庫や物流網との接続がないため、注文の遅延に気付いていません。
- 在庫管理とその他のサプライチェーンシステムとの統合がないため、非効率な運用を招いています。
- 注文管理システムは倉庫や輸配送のシステムと効果的に通信しておらず、エラーや非効率につながっています。

輸配送

注文

注文管理の同期で可能なこと

在庫レベルと顧客注文とのリアルタイム同期を確保する注文管理ソリューションにより、大幅にエラーを削減でき、フルフィルメントの精度、通信、顧客満足度を向上できます。倉庫や物流網での変化を考慮し、これらのソリューションは業務と顧客ニーズを一致させるのに役立ちます。倉庫や輸配送システム全体でのシームレスな統合により、サプライチェーンは顧客需要に効率的かつ正確に対応できます。

ビデオ： [サプライチェーン実行を同期する価値](#) →

変化を起こす準備は整っていますか？

これらのチェック項目を確認するとき、現在の御社のサプライチェーン課題がいくつこれに反映されているのか考えてください。こうした問題に複数直面している場合、システムが分断して非効率になり機会の損失が発生している可能性が強くあり、同期されたサプライチェーンはこれを変えることができます。

同期手法を採用すると、倉庫、輸配送、注文間における分断を解消でき、可視性や効率が高まり、回復力が向上します。

この相互接続性は、今日の複雑なサプライチェーン状況への対処に役立つだけでなく、混乱の最中でも、顧客の期待に一貫して対応できます。

完全に最適化された業務に同期してサプライチェーンを変革する準備ができている場合、今こそ行動を起こすときです。長期的な成功が促進されます。回復力があるだけでなく俊敏性を備えた顧客中心のサプライチェーンの構築を共に行いましょう。

詳細については、ja.blueyonder.com をご覧ください



 **BlueYonder**
Fulfill your potential™

サプライチェーン実行の同期化
Copyright © 2024 Blue Yonder, Inc.